



INDEX

総長、総理事会と 新任の管区長・分管区長との会合	1
2026年聖霊降臨祭に向けた総長書簡	3
総本部の予定	3
フランシスカン・ブック	4
総長、 聖マリアの被昇天管区を訪問	4
総長、 聖マリアの被昇天管区を訪問	5
オーストラリアにおけるフランシスカン宣教拠点 強化のための共同の歩み	6
Acta Ordinis	6
フランシスコと歴史： 新しさと伝統の間で	7
チェコ共和国、 聖ヴァーツラフ管区会議	7
マルタ、 使徒聖パウロ管区会議	8
ベトナム、 ブラ村で新しい教会の献堂	8
スリランカのフランシスカン兄弟たち、 宣教の使命を新たに	10
Life in the Order	11
中央アフリカ共和国の在世フランシスコ会、 全国選挙会議開催	12

**総長、総理事会と
新任の管区長・分管区長との会合**
2026年5月11～19日、ローマ

総長および総理事会は、5月11～19日にかけて、小きき兄弟会総本部において、新たに就任した管区長や分管区長たちと会い、各管区・分管区における権威の奉仕に同伴し、本会の活動と使命を強化することを目的とした、養成と対話の時間がもたれた。会合は、歓迎のあいさつと総本部の建物の案内から始まった。その後、参加者たちは、小グループの話し合いや全体の会議において、それぞれの管区・分管区の喜び、希望、課題、期待について分かち合った。

総長は、「カリスマは時代の転換期における権威の奉仕を照らす」というテーマで行なわれた講話のなかで、管区長や分管区長たちに対し、カリスマとは共同体と使命への奉仕のために聖霊から与えられた賜物であり、私的に守っていくべき遺産ではないことを指摘した。そして、「カリスマは、箱のなかに大切にしまっておくべき概念ではありません。わたしたちの奉仕を導く生きた力なのです」という点を強調した。そしてそれは、現実を読み解き、決断を下していくための具体的な判断基準を示す



ことのできる力である。また総長は、最近の教導職の教えに基づき、権威には、兄弟たちの間で責任ある自由を促進しながら、このような賜物を守り、さらに生かしていくことが求められていると力説した。

総長は、こうした観点から、権威の奉仕を行なう者の第一の責任として、傾聴を指摘した。それは、兄弟的生活のなかで聖霊の声を認識することのできる、真の深い傾聴である。また、総長は、管区長たちに対し、単なる管理者になってしまうことなく、個人的同伴と共同体としての識別に注

意した「カリスマのアニメーター」となるよう招いた。そして、その精査のために、「誰が権威の奉仕を行なうわたしの声に耳を傾けているのでしょうか。そしてその時、わたしは誰に従順しているのでしょうか」という、会合全体を貫く問いを投げかけた。それは、統治の奉仕が、使命とカリスマにしっかりと根ざし続けていくためである。

続きを読む www.ofm.org

●● flickr



Government of the Order



2026年聖霊降臨祭に向けた総長書簡

800周年を越えて: 命を与える聖霊



WWW.OFM.ORG

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、

主が平和を与えてくださいますように。

私たちはいま、まさに聖フランシスコと「姉妹である死」との出会いの800周年を祝っているところです。私たちは、3年間にわたって準備を重ねながら、『会則』、グレッッチョにおけるクリスマス、ラ・ヴェルナにおける聖痕、『被造物の賛歌』、そして死にいたるまで、フランシスコの地上の歩みの最後の段階をたどってきました。この過程が一貫したものであることを理解する一助となる言葉をお伝えするのは、重要だと思われます。なぜなら、この800周年を、何の痕跡も残さずに終わる単なる祝祭の一つとしてしまってはならないからです。私は、フランシスコの人物像を「記念碑化」し、その生涯のいくつかの場面をまるでスナップ写真のように固定することで、それらを結びつける内面的動きを見失ってしまう危険性を感じています。しかし、まさにそこにこそ、主が聖霊によって、アシジのフランシスコを通して教会と世界に与えてくださった賜物、すなわちそのカリスマを見いだすことができるのです。聖霊

降臨祭の九日間の初めに、この手紙を皆さんにお送りするのは、まさにそのためです。私たちは、本会総長は、新たな福音的活力を願いながら、命を与える聖霊に対して、私たちをその光へと、その炎へと開いてくれるよう呼びかけます。フランシスカン家族に属する私たち一人ひとり、そして私たちとともに生きる世界が、どれほどそれらが必要としていることでしょうか。

全文を読む: [Italiano](#) - [English](#) - [Español](#) - [Deutsch](#) - [Français](#) - [Hrvatski](#) - [Polski](#) - [Português](#) - [日本語](#)



総本部の予定



☑ 総長の兄弟Massimo Fusarelliと総理事の兄弟Konrad Cholewaは、5月22～26日、以下の日程でポーランドを訪問予定。22日に、クラクフにおいて、諸天使の聖マリア管区の管区会議に参加予定。23～24日、聖フランシスコの帰天800周年を記念するフランシスカン家族の会合のため、聖アンナ山を訪問予定。25～26日、クラクフにおいて、管区合同の有期誓願者のための養成の家の養成者および被養成者たちと会う予定。

☑ 兄弟Massimoは、5月27～29日、ローマで総長連合の会合に出席予定。5月31～6月6日、無原罪の御宿り管区訪問のため、スペインを訪れる予定。

☑ 養成・学問総事務局の副事務局長の兄弟Edson

Augusto Nhatuveは、5月26～29日、ザンビアのルサカにおいて、アフリカに現存する全小さき兄弟会の上級上長の会議に参加する予定。

☑ 福音宣教総事務局の事務局長の兄弟Francisco Gómez Vargasと総アニメーターの兄弟Dennis Tayoは、5月27～6月11日、2026年アジア・兄弟的相互従順に基づく宣教研修会(IMCA)の参加のため、フィリピンを訪問する予定。

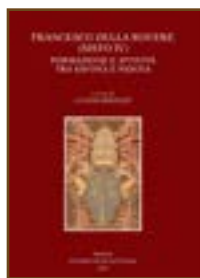
☑ アジア・オセアニア地域担当の総理事の兄弟John Wongは、5月28～6月8日、聖アントニウス独立分管区（マレーシア・シンガポール・ブルネイ）を訪問する予定。

フランシスカン
ブック

Francesco Della Rovere (Sisto IV).

Formazione e attività tra Savona e Padova.

Atti del Convegno di studio
(Savona, 15-16 novembre 2024 - Padova, 21-22
novembre 2024)



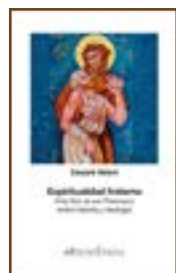
A cura di Luciano Bertazzo
Centro Studi Antoniani

Francisco en fiesta:
su pascua



Fr. Francisco Pérez Hermoso, OFM
Ediciones Franciscanas
Arantzazu

Espiritualidad fraterna.
Una Vida de san Francisco
entre historia y teología



Fr. Cesare Vaiani, OFM
Ediciones Franciscanas
Arantzazu

総長、 聖マリアの被昇天管区を訪問

2026年4月24日～26日、
ブラジル、マランニャン州バカバル



WWW.OFM.ORG

2026年4月24日から26日にかけて、ブラジルのマランニャン州 Bacabal市において、聖マリア被昇天管区のすべての兄弟が集まり、総長の兄弟Massimo Fusarelliと、総訪問者である兄弟 César Kulkampを歓迎しました。今回の訪問の目的は、各兄弟の歩みを知り、励ますとともに、兄弟たちが生活しているさまざまな現実を把握することにあります。時間を最大限に活用するため、集会はいくつかの部分に分けて進められた。神学生のグループ、養成担当チーム、管区評議員、そして管区のすべての兄弟たちとの個別面談が行われ、兄弟たちは開かれた心と傾聴の姿勢で、自分たちに向けられた言葉に耳を傾けた。

兄弟Massimo Fusarelliは、前回の定期訪問の際に提出された報告書を出発点としてスピーチを始め、提案された事柄を勇気と大胆さをもって実践に移す時が来ていることを兄弟たちに思い起こさせました。そして、当修道会は小教区や聖地、学校を管理・運営する組織ではなく、福音を証しする「兄弟会」であることを改めて強調した。

兄弟同士の分かち合いのなかで、経済や管理運営の状況、召命の養成、アイデンティティの危機と世俗化、財産の管理といった他のテーマについても対話が促されました。また、これらすべての事柄によって、本来であれば兄弟生活のためだけに捧げられるべき時間がどれほど消費されているか、という問い直しもなされました。総長は、とりわけ兄弟たちの修道生活の質に寄与するため、またフランシスコ会の精神である愛徳の根本的な側面を最優先するために、宣教の前線を再編するよう求めた。重要なのは、より多くの活動を行うことではなく、質を高めて行うこと、なぜなら、兄弟的生活とは神との特権的出会いの場になるからだ。

この集会の絶頂となったのは、São Francisco das Chagas小教区の聖堂で行われたミサ聖祭でした。兄弟Massimo Fusarelliが司式したこのミサには、すべての兄弟たち、フランシスカン家族、そして多くの信徒が集まった。

総長と総訪問者の兄弟愛に満ちた交わりに感謝するとともに、二人の貴重な導きに基づいて、これから行われる省察と実践を心に留めておいた。



総長、 ブラジルの聖アントニオ管区訪問 分かち合い、内省、そして希望のひととき



WWW.OFM.ORG



2026年4月27日から29日にかけて、総長の兄弟Massimo Fusarelli, OFMは、ラテンアメリカ担当の総理事である兄弟César Kulkamp, OFMとともに、ブラジル北東部にあるブラジル聖アントニオ管区を兄弟愛をもって訪問した。今回の訪問は、兄弟たちの間の兄弟愛の絆を強め、現代におけるフランシスコ会の宣教についての傾聴、対話、省察の機会を促進し、管区の召命と宣教司牧の歩みを励ますことを目的としていた。

訪問は4月27日の夕方、ブラジルで最初のフランシスカン修道院であるOlindaの「雪の聖母修道院（有期誓願院）」から始まった。歓迎は地元の文化を交えた素朴な喜びの雰囲気の中で行われ、兄弟たちがそれぞれの経験や課題、そして兄弟生活への感謝を分かち合う共生のひとときとなった。

4月28日はLagoa Seca (Paraíba州) の聖アントニオ修道院において、修練者、有期誓願者、そして各修道院から集まった兄弟たちが参加し、管区集会が開

催された。その中で総長は、ブラジルが直面しているいくつかの社会的課題に触れ、「フランシスカンの兄弟性はピラミッド型に構成されているのではなく、円の中にあります。そこでは権力とは奉仕であり、互いの足を洗い合うのです」と強調した。

同じ文脈において、総長は私たちに対し、より公正な社会への道を切り拓くことができる「出会いの文化」を真に育むよう呼びかけ、教皇フランシスコの「無関心のグローバル化」に関する省察に照らして、識別をもって現実を読み解くよう促した。また、多くの修道家族が経験している規模縮小の時代は、何よりもまず、眼差しと宣教への回心を指摘した。

この集会には、Campina Grande (Paraíba州)、Feira de Santana (Bahia州)、Mosoró (Rio Grande do Norte州)、Canindé (Ceará州) の各修道院のクララ会姉妹たちや、Lagoa Secaの在世フランシスコ会の代表者たちも参加し、フラン

シスカン家族における交わりと共に歩む旅路の証しとなった。

4月29日、ミサ後、兄弟Massimoと兄弟Césarは管区理事たちと面会し、修練院を訪れた後、Campina Grandeのクララ修道院の姉妹たちの共同体を訪問した。この日はRecife (Pernambuco州) の聖アントニオ修道院での兄弟的夕食で締めくくり、親密な交わりと対話の日々を固く結び合わせた。

兄弟Massimoの言葉は、回心への招き、貧しい人々への近さと、奉仕、憐れみ、そして文化の出会いによって特徴づけられ、より福音的兄弟愛を築くことへの呼びかけとして響き渡った。参加したすべての人は、交わりのうちに生きるフランシスカン・カリスマの豊かさをより具体的なものとした。

感謝と希望の雰囲気の中で訪問を終え、兄弟たちは、現代世界において兄弟性がこれからも預言的しるしであり、福音の生きた証しであり続けるという確信を新たにした。

オーストラリアにおける フランシスカン宣教拠点強化のための共同の歩み

2026年5月7日、総本部での会合



WWW.OFM.ORG



2026年5月7日木曜日、ローマの総本部において、聖ヒエロニムス諸管区協議会に属する管区の兄弟たちがオーストラリアに設けた宣教拠点についての重要な会合が開かれた。この会合には、オーストラリアおよびアオテアロア・ニュージーランドの聖霊管区の管区長の兄弟Stephen Bliss、ボスニア・ヘルツェゴビナの聖十字架管区の管区長の兄弟Zdravko Dadić、クロアチアの聖キュリロスと聖メトディオス管区の管区長の兄弟Ivica Jagodićと同副管区長の兄弟Mario Zubak、スロベニアの聖十字架管区の管区長の兄弟Christian Gostečnik、そしてそれぞれの管区の管区秘書および教会法学者1名が出席した。この会合には、総長の兄弟Massimo Fursarelli、スラブ諸管区協議会担当の総理事の兄弟Konrad Cholewa、アジア・オセアニア地域諸管区協議会担当の総理事John Wongも参加した。

この兄弟性と省察のひとつの中心テーマとなったのは、オーストラリア管区との深い関係のなかで歴史的に誕生した、スラブ地域の諸管区の兄弟たちがオーストラリア南部に設立した宣教拠点の

現状と未来である。兄弟Massimoは、開会のあいさつのなかで、この会合が、現状に関する真摯な対話だけでなく、「当地域におけるフランシスカンの宣教の未来に対する共通の展望」も促進する、「大きな喜びと希望に満ちた出会いの時間」となしてほしいという期待を表明した。会合では、地域教会との関係という意味でも、オーストラリアの世俗当局との関係という意味でも、宣教拠点の現状に関するさまざまな課題が取り上げられた。さらに、関係する諸管区の間すでに存在する兄弟性と感謝の絆を評価しつつ、オーストラリア管区の活動により積極的に参加し、具体的に協力していくための方法についての考察が行われた。

会合が始まるまでの数日間、聖ヒエロニムス諸管区協議会に属する3つの管区の管区長たちは、すでにオーストラリア管区長と個別に会い、運営、経済、未成年者や弱い立場におかれている成人の保護、生涯養成、兄弟的協力といった課題について話し合いをしていた。この会合の議長を務めた兄弟Stephen Blissは、このプロセスが各管区長間の相互のつながりの

意義を強化したことを強調し、「私たちは困難を率直に検討しました。驚きや痛み、感動もありましたが、私たちの兄弟性の力は強まりました」と述べた。兄弟Zdravko Dadićは、世界各地で移民のチャプレンに同伴する活動に取り組んでいる自身の管区の経験を分かち合った。そして、宣教のために派遣された兄弟たちと兄弟的絆を強めていきたいという望みを強調しながら、このような現実にも向き合う機会を与えてくれたオーストラリア管区に対する感謝の気持ちを表明した。また、スロベニアとクロアチアの管区長たちも、オーストラリアにおけるフランシスカン拠点の具体的現実をより深く理解するとともに、70年以上にわたって同国に暮らす移民コミュニティに対する司牧活動において共同の決定を行なっていくために、今回の会合が重要であることを強調した。会合は、将来に向けた具体的計画について合意し、幕を閉じた。2026年末までの各協力事業について、共通のプロセスと個別の作業プログラムが策定された。管区長たちは、12月に再び集まり、「対話、相互責任、そして共通の使命という豊かで兄弟的歩みを続けていく」ことになっている。

Acta Ordinis

The latest issue of
Acta Ordinis 2025/3:

An. CXLIV
– Septem-
bris-Decem-
bris 2025



Franciscan Centenaries



フランシスコと歴史：新しさと伝統の間で

2026年5月25～26日、ローマ、
アシジの聖フランシスコ帰天800周年を記念した国際研究学会



WWW.OFM.ORG



FRANCIS AND HISTORY.
BETWEEN NOVITAS AND TRADITIO

ROME, 25-26 MAY 2026

アシジの聖フランシスコの帰天800周年（1226-2026年）を記念して、国際研究学会「フランシスコと歴史：新しさと伝統の間で」が、教皇庁立アントニアヌム大学附属中世・フランシスカン研究高等研究所、イタリア中世歴史研究所、教皇庁歴史学委員会の3つの機関合同で開催される。これらの機関は、中世における修道生活の多

様で多面的表現の歴史学的研究や調査を主要な研究テーマとしており、なかでもアシジのフランシスコの伝記的、制度的、聖人伝的変遷は、そのパラダイムの性格と、今日にいたるまで何世紀にもわたって生き生きと響き続ける記憶のエコーゆえに、とくに重要な位置を占めている。

本国際研究シンポジウムは、広範で複雑に絡み合う歴史的、制度的、文学的文脈において、アシジのフランシスコの人物像、活動、そして遺産を再検討し、その固有で独特な、他に類を見ないカリスマ的特徴だけでなく、中世の修道生活における一連の創立的、教会法的、叙述的試みとの接点や反響も深く掘り下げていくことを目的としている。中世における宗教的試みとの連続性と非連続性という観点から、アシジのフランシスコを比較研究的、通時的に再解釈

することによって、フランシスコのあかしにおける崇高な到達点であり、継続的で豊かな新しい出発点でもある「キリストに従うこと（sequela Christi）」における「新しさ（novitas）」と「伝統（traditio）」のダイナミックな関係性のなかで、その特別な意義をより深く理解することができるようになるだろう。

開催日程は以下の通り

- ・ 5月25日：
教皇庁立アントニアヌム
(Viale Manzoni, 1 - Roma)
- ・ 5月26日午前中：
イタリア中世歴史研究所
(Piazza dell' Orologio, 4 - Roma)

Chapters



チェコ共和国、聖ヴァーツラフ管区会議

2026年5月4日～6日、プラハ



WWW.OFM.ORG



2026年5月4日から6日にかけて、チェコの聖ヴァーツラフ管区の兄弟たちがプラハの「雪の聖母修道院」に集まり、管区会議が開催されました。この会議の最初の数日間には、総理事である兄弟Konrad Cholewaも出席した。

祈りと兄弟的な交わりに満ちた日々の中で、兄弟たちは2029年までに管区を分管区（クストディア）へと移行・改編することについて議論した。また、プラハ近郊のHájekに新しい養成共同体を設立することや、物質的な事柄に対する

兄弟たちの懸念を軽減するためのパイロット・ファウンデーション（試験的基盤）プロジェクトを立ち上げることも勧告された。さらに、より大規模で調整された宣教への取り組みと、ソーシャルメディアにおける真正な現存を求める声も上がった。

管区の新しい役員は、以下の通り選出された。

管区長：兄弟Bonaventura Ondřej Čapek
副管区長：兄弟Jakub František Sadílek
管区理事：
兄弟Jeroným František Jurka
兄弟Jan Kapistrán Tomáš Gajdoš
兄弟Bernard Ondřej Mléčka
兄弟Šimon Jaku
兄弟ůžička

マルタ、使徒聖パウロ管区会議 兄弟Ramon Farrugiaが新管区長に選出



WWW.OFM.ORG

神への感謝に満たされ、私たちの管区の未来への希望を胸に、Maltaにおける小さき兄弟会の使徒聖パウロ管区の管区会議において、今後の数年間にわたり私たちの兄弟会に奉仕し、導く役員として、以下の兄弟たちが選出されたことを謹んでお知らせします。

管区長：兄弟Ramon Farrugia, OFM
副管区長：兄弟Stephen Magro, OFM
管区理事：



兄弟Martin Coleiro, OFM
兄弟Stephen Sciberras, OFM
兄弟Walter Vassallo, OFM
兄弟Clive Camilleri, OFM

アッシジの聖フランシスコのカリスマに従い、奉仕と兄弟愛の精神をもってこの責任を受け入れ、寛大に応えてくれたこれらの兄弟たちの熱意に対して、主に感謝を捧げた。

彼らが知恵、謙遜、識別、そして福音への忠実さをもって宣教を果たすことができるよう、聖霊が彼らを照らし、強めてくださるよう、皆さまのお祈りをお願いします。

主が私たちの管区を祝福し、教会と神の民への奉仕へと常に導いてくださいますように。

管区会議書記：兄弟Walter Vassallo, OFM



News from the Entities

ベトナム、ブラ村で新しい教会の献堂 2026年4月16日



WWW.OFM.ORG

ベトナムのブラにある宣教共同体は、去る4月16日、村の新しい教会の献堂式を執り行ない、喜びと祝いに満ちた一日を過ごした。それは一度限りの幸福ではなく、死に勝利する命の喜びであり、あらゆる闇に打ち勝つ希望の喜びであった。

ブラの宣教拠点には、多くの浮き沈みを経験してきた。1993年、何人かの少数民族の人たちが、あるヴェトナム人のカトリック信者の家族の指導を受けながら、カトリック信仰について学び始めた。彼らはその後3、4年間辛抱強く学び続けた末、ついに神の子として洗礼を受けた。この人

たちが住んでいた村は、カテキズムが行なわれていたところから20キロ以上も離れていた。道は鬱蒼とした草木や森に囲まれ、夏は埃っぽく、雨季にはぬかるんで滑りやすかった。当時、彼らはボロボロの古い自転車か、あるいは単に徒歩で移動していた。すぐにどこかが壊れてしまって、時には残りの道のりを、自転車を押しながら進むことを余儀なくされた。

このような困難によって、信仰において固く強靱で揺るぎない精神が培われた。地元自治体の委員会から尋問のために呼び出され、銃口を突きつ

けられて信仰を捨てるように脅迫されたり、何日も強制労働を強いられたりしたときでさえ、彼らは信念を貫き通した。Arich氏は当局に向かって、次のように述べた。「私たちは、信仰を捨てることができません。なぜなら、信仰は私たちの魂と心のなかにあるからです。信仰は、好きな時に脱ぎ捨てられる服のようなものではありません。ですから、私たちが信仰を放棄することはできません」。恐怖に陥れるどころか、彼らの神に



対する愛がさらに強まり、勇気をもって近隣の村々ですべての人々に福音を宣べ伝える契機になった。

時間が経過するにつれ、その蒔いた種は実を結び始めるようになった。毎年、復活徹夜祭に、新しいメンバーが光の子、神の子となった。信者の数が増えるにつれ、祈りやロザリオ、み言葉の分かち合い、そしてミサのために集まることのできる場所の必要性も高まってきた。こうして2010年、Philip Plal氏の寛大さと神に対する愛のおかげで、礼拝堂が設けられた。最初は小さな客間に過ぎなかった。徐々にその小さな部屋は改修され、拡張されていった。当初、当局はこれを妨害し、増築を禁止し、建物の一部を取り壊すことさえした。しかし、村の住人たちの強固な意志と忠実さに直面し、当局もついに、これ以上干渉することをやめ、宗教活動の継続を許可するようになった。それでも、小さな礼拝堂では増え続ける信徒たちのニーズを

満たすことができなかったため、プレイクの共同体の修道院長とブラの宣教拠点の責任者である兄弟が、村人たちと一緒に、新しい立派な礼拝堂

を建設することを決め、労力と資金を提供した。管区長の提案と、管区、共同体、恩人たち、親族、そして地元住民の支援のおかげで、新しい礼拝堂は、長い8か月の工事を経てついに完成し、祝別された。

ベトナムの中央高地は、「太陽と風の地」として知られているが、まさにその通りである。2026年4月16日木曜日の朝、蒸し暑い4月の陽気のなか、コントゥム教区のAloisio司教が荘厳にミサを司式し、司教総代理およびヴェトナムのアシジの聖フランシスコ管区の管区長の兄弟John of God Nguyenが共同司式した。ミサには、多くの司祭、修道者、信徒たちに加え、各地から集まった恩人や親族たちも参加した。この盛大で活気あふれる交わりは、信仰と愛によって結ばれた教会という、地域教会の美しいしるしとなった。

あらゆる方面からやってきた大勢の人たちが、朝早くから新しい聖堂へと押し寄せ、喜びと幸福と神聖さの雰囲気醸し出していた。このような祝いの雰囲気は、歓迎の式典によってさらに高まった。銅鑼の音が響き渡るなか、バナール族の若者たちによる流れるような優雅なソアンの踊りが披露された。

午前8時、ミサが始まる前に、管区長による、聖フランシスコの遺産とフランシスカンの霊性の基本的価値についての話があった。まず管区長は、レプラ患者との出会いとサン・ダミアノにおける十字架上のイエスの出会いという、二つの出会いから生まれた根源的回心について話した。第二の遺産は、教会と聖体に対する愛である。第三は、兄弟性のうちに生きること、すべての人、すべての被造物と兄弟となることである。

そして最後に、平和の福音の告知である。管区長の言葉は、このイベントの意味を明確にするものであった。というのは、単に物理的素材だけでなく、教会、聖体の観想、福音の告知に根ざした、清貧、謙遜、兄弟性の生活を通して、聖堂が建てられたからである。

ミサの最中、共同体は、典礼と司教の説教を通して、教会が単なる祭儀の場ではなく、交わりの家であり、誰もが平和を見だし、各自の信仰生活において成長していく場所でもあることを観想するよう招かれていた。この献堂式の喜びは、建物の完成で終わってしまうものではない。むしろ、福音に忠実で、世におけるあかしとなる、生きた共同体を築



くという新たな道に開かれているのである。

この日の喜びは、生まれ変わった民の喜びである。すべては、静かな犠牲と労苦、そして絶え間ない祈りによって、神がご自分の民の間に住まわれる聖なる場所へと結晶した。この出来事は、私たち兄弟全員が、奉仕の素朴な生活を通して教会の建設に貢献しながら、教会のなかで「小さき者」として生きるという召命に忠実さを保ち、神

の民、とりわけ困窮する共同体に寄り添い、平和の道具となることを忘れないようにしてくれるだろう。一人ひとりが教会という家の「生ける石」となれるように、アシジの聖フランシスコの取り次ぎによって、神がブラの共同体、司教、司祭、修道者、恩人、そして私たち全員を祝福し続けてくださいますように。

兄弟Duc Tri, OFM

スリランカのフランシスカン兄弟たちが使命を新たにす

聖ジョゼ・ヴァス宣教地区会議



WWW.OFM.ORG

4月27～29日にかけて、スリランカのキャンディにおいて、聖ジョゼ・ヴァス宣教地区の兄弟たちが、宣教地区総会のために集まった。総会は、アシジの聖フランシスコの精神で福音を生きるという望みをあらためて確認する、祈りと識別の時間となった。



この総会には、「福音的兄弟性を再構築する：聖フランシスコの帰天の精神における希望の巡礼者」というモットーのもと、聖ペドロ・パウティスタ管区（フィリピン）に属する同宣教地区の兄弟たちが集まり、マイノリティーの教会という文脈における兄弟的生活と使命についてあらためて検討した。開会のミサは、回心と福音への忠実のうちに再出発するための具体的招きとして、この会合を聖フランシスコの帰天800周年という地平のなかに位置づけるものだった。

兄弟たちは、総会が開催されていた数日間、受けた賜物と課題を認識しながら、それぞれの共同体の現実について簡単に分かち合った。対話のなかで、ある確信が力強く浮かび上がってきた。フランシスカンのアイデンティティは、何をするかよりも、何よりもまず、兄弟であることに根ざし

ているという確信である。ここから、共同体生活を強化する必要性が強調された。それは、修道院が、選び守っていくべき兄弟性を欠いた、単なる機能的共住に陥らないためである。そのため、兄弟たちは、受けた召命の具体的表現として、共同の祈り、分かち合いの生活、そして共同体における定期的会合の責務を新たにした。

総会では、召命と養成の問題についても、現実的視点から議論が行なわれた。新たな候補者を引き寄せ、同伴していくことが困難になっている現状から、確かな同伴のもと、若者たちを生活、信仰、そして弟子としての生き方へと養成するプロセスを提案する緊急の必要性が強調された。この方針に基づき、奉獻生活の選択を直接前提とせず、人間的、キリスト教的、フランシスカン的に養成することを中心に据えた、若者に対する幅広い司牧の取り組みを目指して、志願者養成プログラムの見直しが承認された。さらに、より明確な識別の判断基準、適切な保護措置、そして養成チームの強化の重要性が指摘された。

兄弟たちは、宣教に関して、使徒的活動を単なる個人的取り組みの総和としてではなく、共同体として行なうことを助けてくれる、共通の展望の必要性を認識した。こうした意味で、貧しい人たちや周縁に置かれた人たちへの寄り添いの優先が再確認され、宣教拠点の再開の可能性も検討された。また、スリランカにおけるフランシスカンの活動の重要な側面として、諸宗教対話が評価された。識別においては、法的明確性を向上させ、宣教地区の固有の使命をより適正化していくために、スリランカのハンセン病患者・回復者支援協会との協力も検討された。

正義と平和・被造物の保全は、独立した領域ではなく、フランシスカン的生活を構成する要素として位置づけられた。総会では、とくにさまざまなコミュニティが貧困や排除の危険にさらされている地域において、正義、包摂（インクルージョン）、参加を養成、兄弟的生活、使命と統合するこ

との重要性が示された。

兄弟たちは、内部の組織に関して、管区からの指示に柔軟に対応し、管区代表の支援も考慮しながら、宣教地区の現在の構造を維持することを選択した。それと同時に、統一的会計システム、定期的報告、兄弟たちに対する安定した月ごとの支給など、透明性と説明責任に関する具体的措置が定められた。

宣教地区総会は、養成、宣教、正義と平和・被造物の保全、ガバナンスに関する20の決議案をほぼ全会一致で承認して幕を閉じた。管区長であり、総会の議長も務めた兄弟Lino Gregorio V. Redoblado (OFM) は、最終メッセージのなかで、兄弟たちに対し、聖フランシスコの帰天800周年を真の刷新の機会として捉えるよう勧めた。そして、「これは単なる一度限りの記念行事ではありません。回心への招きであり、新たな活力とともに再出発する招きなのです」と述べた。さらに付け加

えて、「兄弟的生活こそが、私たちの第一のあかしです。私たちは、忍耐と赦し、希望とともに、日々お互い選び合っていかなければならないのです」とも述べた。

兄弟たちは、話し合われたテーマに加え、恵みの時間として経験したこの共通の歩みに感謝しつつ、それぞれの共同体に帰っていった。聖ジョゼ・ヴァス宣教地区は、その方向性をより明確にし、一致を強めながら、希望のうちに未来を見据え、スリランカにおいて兄弟として、また宣教師として、より真摯に福音を生きていくことを心に誓った。

最終宣言を読む
[final statement](#)

LIFE in the Order



司祭叙階

・2月26日、聖フランシスコと聖ヤコブ管区 (メキシコ)

兄弟Jesús Adrián Cabrera Jiménez



帰天された兄弟た

† 5月7日：兄弟Raphael (Ludwig) Konrad、
聖エリザベト管区 (ドイツ)

† 5月6日：兄弟Paolo Dozio、
聖アントニウス管区 (イタリア)

† 4月30日：兄弟José Antonio Santacruz
Santos、

聖フランシスコと聖ヤコブ管区 (メキシコ)

† 4月21日：兄弟Francisco María (Abel
Patricio) Pacheco Sánchez、
十二使徒管区 (ペルー)

† 4月18日：兄弟Renato Ghilardi、
聖痕の聖フランシスコ管区 (イタリア)

総事務局からの情報





中央アフリカ共和国の在セフランシスコ会、全国選挙会議開催 2026年5月8～10日、バンギ



WWW.OFM.ORG



6つの在セフランシスカン地区評議会からやってきた中央アフリカ共和国の在セフランシスカン全国兄弟会の兄弟姉妹たちは、2026年5月8～10日にかけて、バンギ市のビンゴ地区にあるパドヴァの聖アントニウス小教区に喜びのうちに集まり、選挙会議を開催した。5月8日金曜日に、兄弟Saturnin Shadrac Langba Zounga (OFM) が司式し、霊的総補佐の兄弟Pedro Zitha (OFM) と地区霊的補佐の兄弟Boris Guessikane (OFM Cap.)——総会の開会宣言もした——が共同司式するミサで、会議が公式に始まった。

その後、在セフランシスカン総長のTibor Kausser (OFS) の代理として、Adolph Assagba (OFS) が、過去3年間に亡くなった在セフランシスカン員を偲んで黙祷をささげるよう呼びかけた。同じ頃、ブワル教区内にある西部地区の地区霊的補佐の兄弟Tomasz Switala (OFM Cap.) が到着した。総会書記によるプログラムの提案は、すべての総会参加者から全会一致で承認された。続いて、参加者たちは、任期が終わる全国兄弟会会長のMagloire Malissaba (OFS) の講演に耳を傾けた。会長は、在セフランシスカン国際評議会の代表たちおよびすべての参加者たちを歓迎し、キリストと聖フランシ

スコにおいて兄弟姉妹として一致のうちに生きる喜びを強調した。選挙会議は、Adolph Assagba (OFS) が議長を務め、在セフランシスカン総補佐役協議会を代表して兄弟Pedro Zitha (OFM) が証人となった。会議には40名の会議出席者と7名のオブザーバー、ならびに6名のユース・フランシスカン会員が参加した。午後には、任期が終わる全国兄弟会会長による報告が行なわれ、同会長は、任期を終える評議会の各メンバーに対し、協力的で兄弟的精神と創造性によって、評議会の作業を円滑かつ実りあるものにしてくれたことへの感謝の気持ちを表明した。続いて、会計担当者による報告が行なわれた。5月9日土曜日、会議出席者たちは、選挙を準備するミサとともに、朝早くからこの日の日程を始めた。会議出席者たちは、全国兄弟会会長としてMagloire Malissabaを、国際評議員としてGuy Alain Segoroyeを、今後3年間の任期で再選した。日曜日に、新評議会の就任式が小教区ミサの間に行なわれ、小教区のすべての信徒たちが、フランシスカン家族とともに、アシジの聖フランシスコの帰天800周年を記念する聖なる年の公式の開幕を祝った。

ミサの後、一同が集まって、フランシスカンのカリスマという賜物に対する大きな喜びと感謝に満ちた分かち合いのひとときを過ごした。そして最後に、在セフランシスカン国際評議会の代表たちと別れを告げた。そして、フランシスカン家族の一致のために働くという会議のメッセージを携えてそれぞれの地域に帰れるよう、一人ひとりの旅の安全を祈った。

写真は、
中央アフリカ共和国
在セフランシスコ会の新しい全国評議会

Subscribe

Write us

Web

Follow us



Newsletter



comgen@ofm.org



www.ofm.org



@ofmorg



@fratrumminorum



@ofm.org



flickr

Curia Generale dei Frati Minori
Via di S. Maria Mediatrix, 25
Roma, Italia

Director: Br. Byron A. Chamann Anléu OFM
Translators: Br. John Luke OFM, Br. Arthur Andersen OFM, Br. Rick Martignetti OFM

OFS

Ordo Fratrum Minorum
© 2026 All rights reserved